

いろいろな個性、生活もいろいろ「からふる」へようこそ!



今年6月1日、都庁に近い西新宿4丁目に新しいグループホームができました。名前は「からふる」と言います。ここに入居された7人の知的障害の皆さんが、それぞれの色・個性を発揮して生き生きと過ごせるようにとつけられた、この名前。ロゴマークの通り、背丈や表情が様々な色とりどりの7本の色鉛筆の集合体となりました。十人十色という言葉がありますが、「からふる」の皆さんは、ひとり1色ではなく、他の入居者や介助者、地域の皆さんと関わり合うことで新しい色を生み出して「十人百色」、「十人千色」になってくれればと願っています。

入居者の皆さんは、長年新宿で暮らしてきた40代～50代の方たちで、区内の他のグループホームよりは少し年齢層が高めでしょうか。男性5人に女性が2人。その素顔は、プロ野球の熱狂的なファンの方。絵を描くのが好きな方。NHKラジオとニュースを愛する方。スーパーで誰よりも早く安いものを見つける買い物上手な方。外出予定を記入したカレンダーを見ながら楽しみで笑いがこぼれちゃう方。いつも物静かで周りを気遣って優しく声をかける方。介助者を次々と負かす将棋名人の方。こんな7人が、2階建の一軒家で新しい生活を始めました。

平日は、あゆみの家をはじめ、あした作業所、新宿福祉作業所、生活実習所、第二あした作業所といった、区内の事業所へと通っています。日中は、それぞれの通所先で作業や運動をされて、夕方には皆さんが「からふる」に帰ってきて、リビングでのんびりとお茶を飲みながらおしゃべりをしたり、大きな風呂で汗を流したりしながら、夕食を待ちます。料理の得意なヘルパーさんお手製の夕食が出れば、みんなで食卓を囲みながら、わいわいガヤガヤ今日の出来事を話して賑やかな食卓になります。クイズ番組が始まれば「Bだ!」「俺はA!」と正解を予想し合ったり、プロ野球中継になると、男性陣を中心にそれぞれが応援するチームの試合内容に一喜一憂して、一日で一番にぎやかな時間です。食後は休日の出かける予定を確認したり、介助者も交えてトランプをしたり、明日に備えて早めに寝たり・・・と、それぞれの生活スタイルが少しずつ出てきました。

休日はスーパーに食材の買物に行ったり、電車で出かけたり、同じ法人が運営する近所のグループホームに遊びに行ったりします。週末は自宅に帰って親御さんと過ごされる方もいて、月曜日の夕方に全員揃って1週間が始まります。

「からふる」に入居した皆さんは、ここで初めて顔を合わせた方がほとんどです。毎日日替わりでホームに泊まり、お手伝いをする私たち介助者も、皆さんとは初対面の者がほとんどです。

今まで何十年も一緒に暮らしてきたご家族のいる自宅を出て、初めて出会う人たちとグループホームで生活を始めるという大きなチャレンジ。きっと、楽しい気持ちも不安な気持ちも両方抱えて入居されてきたはず。介助者も今は入居した皆さんのことを知っていくこうとしている途中で、親御さんや通所先の職員さんに色々教えてもらいながら、試行錯誤の毎日です。オープンして1か月が経ち、入居者も「これがしたい!」と自分の希望を言葉にして伝えてくれることも増えてきたので、テレビのチャンネル争いやお風呂の順番が決まらない日も出てきました。生活の色々なことを自分たちで決めるという経験を大事にしていきたいので、こんな時は、その都度話し合いです。予想外のことが起きてバタバタすることも沢山あります。それも良い経験にして、ここで出会った7人の入居者が段々と仲良くなって、安心して毎日を送れる「もうひとつの我が家」になることを目指していきたいと思っています。

知的障害者グループホームからふる 所長 林崎 真里



介助者が将棋名人に挑戦中!



お風呂の順番はこれで決まりかな?



職員もからふるですよ!

●父母会共催行事

みんなで創る、あゆみの樹



去る6月1日に父母会共催行事『みんなで創る、あゆみの樹』が行われました。4月に区の直営施設から職員が総入れ替えとなり社会福祉法人が運営を始めて最初の大きなイベントです。担当職員は、相当プレッシャーを感じていました。

テーマは「グループ間の交流を目的としたゲームと作品づくり」に決まり、普段は4つのグループに分かれている利用者が、一緒に活動して楽しさを共有しよう!ということになりました。また、保護者の皆さんも我が子のグループの職員はわかるものの他のグループの職員はわからない方が多いようなので保護者と職員が楽しく交流できる場にもしたいと考えました。

そして本番です。父母会の竹村さんの明るい開会宣言で始まり、すぐに会場のあちこちから楽しそうな笑顔が広がりました。担当があれば悩み、知恵を借りたゲームは、こんな具合に進みました。

- ①職員を探せ! ⇒あゆみの家の職員が描いた似顔絵を利用者に渡して保護者と一緒にその職員を探します。
- ②手形絵を作る! ⇒事前に作っておいた利用者の手形絵の両隣に保護者と似顔絵の職員の手形を押して「三人の手形絵」を完成させます。
- ③合体して完成! ⇒全員の手形絵(何となく木の葉に似ている)を合体させて大きな「あゆみの樹」を完成させます。

終了後に回収した参加者アンケートでも「良い企画だった」という評価や「来年も参加したい」という期待感が90%台にのぼり、保護者の皆さんにも大好評だったことがわかり、担当者は胸をなでおろしました。「他のグループの職員との交流ができて良かった」という声や、「全員の手形が一つの大きな樹になって一体感を感じた」「楽しい時間をありがとうございました」という感想をいただいた一方で「共催の意味は何だったのか?」「もうひとつと歌とかゲームとかあるといい...」「来年はどんな企画か...楽しみにしています」といった声もありました。来年も今年の反省を生かして楽しい企画を提供します。



似顔絵をもって、さあ出発!



手形絵を作ります



手形がぞくぞく集まってきました



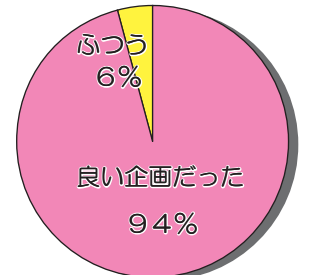
みんなで完成をお祝いします

ご協力いただいたボランティアさん、ありがとう!



参加した保護者アンケート(20名の回答から)

●今年の企画はどうでしたか?



●来年も参加したいですか?

